

「伝統を受け継ぎながらも新しい何かを探求する藤中生であれ！」

本日の私の話ですが、「藤中リサーチ・他の学校にはそうそう無いけれども、藤中にはしっかりと有るもの」、今日は皆さんにこの話をします。

それは、何と言っても、藤中と言えば「歴史に基づいた伝統」ある学校ということでしょうか。

藤中は、藤井寺市3つの中学校で、一番早くに開校した中学校であることは、皆さんも知っていますね。

私たちの藤井寺中学校は、1947年(昭和22年)に創立されました。創立当時の3年生は、現在88歳になられます。

しかし、実は、「歴史・伝統」のある学校というのは、全国の中には、いや大阪府内市町村にも、藤中と同じくらい歴史のある中学校はあります。したがって、先程の答え「他の学校にはそうそう無いけれども、藤中にはしっかりと有るもの」として、「歴史・伝統」は正解ど真ん中ではありません。正しく言い直しますね。藤中ほど、「歴史に基づいた伝統を大切にしている学校は、本校の右に出る学校を、私は知らない！」これがど真ん中のストライク、最も適切な私の見解です。その証として、本校の先生方は皆さんを「第74期生の3年生」、「75期の2年生の皆さん」と、随所に使っておられますよね。他の学校では、あまり見られないことだと思うのです。何なら、皆さん、他校の友達に尋ねてみてはいかがでしょうか。「あなたは、〇〇中学校の何期生ですか？」と。

このことは、藤中の先生が、学校の歴史・伝統を大切にしているというよりも(すみません、先生方も大切にしてくださっています)、皆さんの家族の方、卒業された多くの人々や校区地域の方々が、ずっと変わらぬ心で、藤中を慈しんでいただいている、愛してくださっているのだと思うのです。一年一年、学校が年を重ねていきながら発展していくことを、祈り、見守っていただいているのですね。

そうそう、全校生の中に、実は、藤中がスタートした1947年の初代PTA会長をしておられた方のひ孫にあたる人がいます。祖祖父、祖父、父、に続いて4代目として藤中に在学している人がいるのですよ。

さて、皆さんには、機会あるときにお話していますが、時代は今、21世紀を迎え、日本では令和の時代となり、様々な分野で、今までにない「新しさ」を求められています。そして、自分たちだけで、限られた地域だけで課題に対応して

いくのではなく、国を超えて地球規模で物事の解決を見出していく。また、世界中の人々と共に平和に、幸せに生きていく！このようなことが求められる時代に突入しているのではないのでしょうか。

我が藤井寺中学校も、時代の流れをしっかりと捉えて、「古き良き伝統をしっかりと受け継ぎながらも、新しい藤中を築いていく！」をスローガンに、様々な教育活動を、皆さんと共に進めているところです。新しく生まれ変わった校舎、新しく変更したスクールかばん、そしてもうすぐ新しくなる学生服が、その象徴かもしれません。だけど、これら外付けの物が一番大切な事ではありません。大切な事は、中身ですよ。例えば、学校と言えば、何と言ってもやはり学習。暗記による知識の積み重ねではなく、ICT,タブレットなど最新の便利ツールを、躊躇することなく積極的に利用して、自分自ら調べ、考え出したことを皆に分かってもらえるように丁寧に伝えることや、他の人の意見・考えをしっかりと聞き取ろうとする態度、そして他の人と共感していくそんな「新しさ」「新しい中学生の姿」を目標に、日々の学習に臨んで欲しいのです。

今朝のお話は、中学生の皆さんに対してというよりは、市長さんをはじめ市役所の皆さんや、地域の代表の方々と語り合う、そんな内容となりました。

でも、今の藤中生の皆さんなら、きっと心にストンとおちる（そうだよな、確かに）と思っていただけと信じ、この話題としました。また、機会があるとき、藤中の先生方とも、話を深めていただければ嬉しいです。以上、私の話とします。